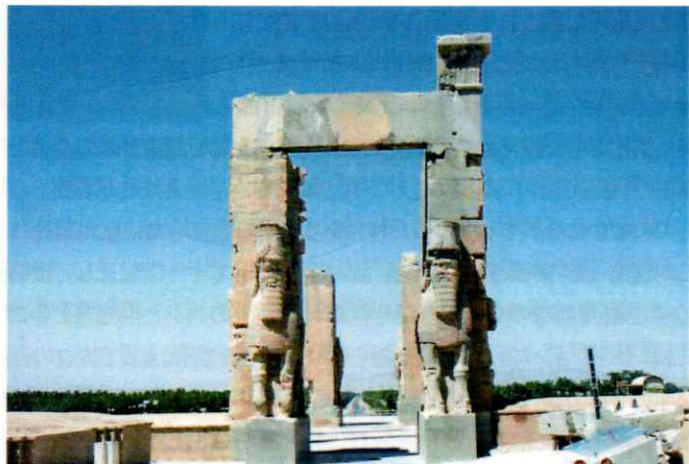


エッセイスト 近藤 節夫



人面有翼獣身像のクセルクス門

パーレヴィ国王時代の1971年に建国2500年祭を祝ったイランは、長い歴史を誇る旧ペルシャ時代から今日まで数多くの価値ある世界文化遺産を育み継承してきた。その主たる祝典会場となったのが、首都テヘランの南方650kmにある古都ペルセポリスである。BC331年マケドニア軍のアレクサンドロス大王が、当時世界帝国だったペルシャ帝国のアケメネス王朝を倒し、栄華を誇っていたペルセポリスを徹底的に破壊し、都市は廃墟となったまま今に残る史跡となっている。

ここには、当時のまま歴史的価値の高い広大な建造物や、文化遺産が数多く残されている。中でも大きな舞台のような壮麗な宮殿跡と、BC5世紀クセルクス1



ペルシャ帝国宮殿跡

世時代に建設されたクセルクス門が、今も人びとの目を引き付けている。この宮殿跡の岩壁に描かれた繊細な彫像は、見ているだけで当時を思い起こさせ心豊かになる。荒野に広がるその壮大な古代都市の残照には建国史の余韻が残り感動を覚える。

このペルセポリスの北方350kmに、16世紀アッバス1世が首都と定めたイスファハンがある。ここは今日まで政治、文化、交通の要衝として繁栄してきた。街はアッバス王朝以前に建設された旧市街と、アッバス1世時代に建設された新市街とで構成されている。そもそも地名のイスファハンとは、当時の繁栄から「世界の半分」を意味しているように、街周辺が繁栄していたことを当時の人びとが誇りにしていたのであろう。

イスファハンは、イランで最も美しい都市「イランの真珠」と言われ、イスラム芸術の最高峰であり、またイランの京都とも呼ばれている。街の中に中世と現代が見事に調和され、中世のモスクの隣に今の商店街が現出するハーモニーとなっている。その典型的な象徴の中心が、広大なイ

マーム広場である。

広場は、東西160m、南北512mの長方形から成り、周囲は二層のアーケードと各方向に4つの記念碑建造物が鎮座している。東には旧市



雑踏するイマーム広場のバザール

街、南は新市街に繋がっている。北には大バザールがあり、日用品からお土産品まで買える。それぞれ青を基調とするアラベスク模様のタイルで覆われている。

イマーム広場から4km離れたザーヤンデ川に架かる二層のハージュ橋も珍しく、興味深いイスラム的観光スポットであり、夜間ライトアップされると一層幻想的で神秘的になる。イマーム広場にせよ、ハージュ橋にしても、ただ歩いているだけで賑やかな話し声と川の瀬音が聞こえ、街のエネルギーな歴史的躍動感を覚える。心の中から高揚感を感じる魅力いっぱいの世界文化遺産都市である。



ザーヤンデ川のハージュ橋